

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092600044		
法人名	株式会社サンシャインライフ		
事業所名	サンシャインあてらグループホーム		
所在地	長野県木曾郡大桑村931-1		
自己評価作成日	平成27年9月23日	評価結果市町村受理日	平成28年1月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成27年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地に落ち着いた建物、庭園を散歩しながら木曽駒を眺め季節の移り変わりを感じながら利用者様と職員一緒に過ごしています。中庭の畑で採れる季節の野菜が食卓に並びます。食卓は麦ごはんや野菜多めの献立を用意し、デザートに手作りヨーグルトを出しています。午後のお茶の時間には、手作りのお菓子や市販のお菓子、お土産で頂いたものなどを出しています。施設ではありますが、もう一つの家として、家庭的な雰囲気大切にしながら、職員も家族の一人として一緒に過ごすことを心がけています。感染症予防にも心がけ、トイレ掃除、お茶がらを煮出したうがい薬をうがいを実施しています。万が一に備え、流行期前には講習会を開き、対策を協議しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い中庭に出て季節を感じながら散歩をすることができ、自然の中でゆったりと過ごすことが出来る環境があり、職員は利用者がゆっくりと過ごせる環境を作りたいと考えている。ここをもう一つの家と考えており、方言を使って話すなど飾らない普段着のままの生活を意識し、いっしょに郷土食を作るなど家庭的な雰囲気を大切にしている。ケア計画は利用者の思いをくみ取ったものとなっており、施設長はじめ職員はその思いに応えようと取り組んでいる。毎日手作りのヨーグルトが出されたり、畑の野菜が食卓に並んだり、食を大切に考えている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(さくら)		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(すみれ)			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>理念 2092600044</p>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>施設のマニュアルの中に入れたりスタッフルーム等に貼り、また、管理者の指導を受けながら理念を共有し、実践できるよう心掛けている。</p>	<p>ゆっくり、いっしょに、楽しみながらという理念は皆で考えたもので会議の中で常に確認している。利用者のペースに合わせてゆったりと暮らせる様、取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事に参加したり地域の方と施設内の行事に参加して頂いたりする事で地域とのつながりを保っている。</p>	<p>事業所の事業を地区内にお便りで知らせるようにしており、納涼祭には家族やボランティアの人たち、地区の人たちが200名ほど参加してくれた。畑で野菜を育てる、琴やバイオリンの演奏などボランティアの人が訪れ利用者と交流している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>施設の行事への参加を地域の方に呼びかけ、参加して頂くことで利用者様や認知症の理解を深めている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に一回の運営推進会議を開催し、利用者様の生活状況、サービスの実態を報告し、意見を頂いている。</p>	<p>定期的に行き事業所の現状を伝えたり、地区の情報交換を行っている。委員の提案で事業所でヘルパー研修を開催したことで、受講生が職員に採用されており、職員体制が整い、利用者のためのサービス向上に活かされている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>推進協議会の委員をお願いし、意見を頂いている。</p>	<p>村の課長が運営推進委員であり情報、意見交換は常に行っている。包括にも分からないことを相談しており協力関係が築かれている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体職員会やミーティング等で周知し厳守に取り組んでいる。	ヒヤリハットについては常に話し合うようになっている。パット外しをやりながらも身体拘束を意識し、「これをやると拘束になるの？」と疑問の時は皆で話し合うようになっている。目を離さない、見守るなどして、拘束をしないよう取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体職員会やミーティング等で話し合い、職員が意識し合い注意している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体職員会等で周知し、意識を深める活動をしている。理解には差があるが、今後も学ぶ機会を作っていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族には、マニュアルで説明を行い、理解・納得を図り、利用者様とご家族の考えを聞いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約を結ぶ時、苦情窓口について説明をさせて頂いている。ご家族の来所時、意見を聞き反映に努めている。	夕方や土日はよく家族が訪れるので、要望や意見を聞くように努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員会、ミーティング、面接等で意見を聞く機会を設けている。	社長との面接が年1回あり職員は自分の思いを伝えている。勤務体制のことで職員から要望が出され、要望が反映された勤務シフトが組まれるようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を求め、業務内容・時間等を変更し、職員個々の状況を評価し、代表者の方に伝えている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修の資料を配布したり、勉強会を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の運営委員を務めていることを通じて情報の支援や交流を深めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、要望等を聞いたり、想いや要望等を聞いた上で安心して頂けるよう、関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、要望等を聞いたり、施設見学をし、環境を見て頂き、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	人生の先輩として、ご本人と共同し関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様・職員が共に生活していくことを考え、ご家族とも相談しながら連携し、ご本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら連携し、ご本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の今までの経歴・馴染みの方や場所を把握し、連絡をとることが出来るよう努めている。	知人が面会に来たり、出来る利用者は職員の支援で電話をかけるなどしている。行きつけの美容院へ行ったり、好きなパン屋など買い物に行きたいという利用者には出来るだけ添うようにして、馴染みの関係が切れないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握した上で、お互いが支えあったり助け合ったり出来るよう支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも相談等支援していくことを伝えている。他施設へ移られた方の訪問を考えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全体職員会・ミーティングや日々の生活の中で把握・確認し、ご本人・ご家族からも情報を得ている。	職員は利用者と一緒に関わりたいと思っており、部屋で話すときなどに思いをくみ取るようしている。困難な場合は、家族からの「昔こうだった」などの声を活かして、思いがかなえられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全体職員会・ミーティングや日々の生活の中で把握・確認し、ご本人・ご家族・前施設からも情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体職員会・ミーティングや日々の生活の中で把握・確認し、ご本人・ご家族からも情報を得ている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員に意見を求め、ご家族の意見も反映するようにしている。	利用者や家族の思いを確認し、利用者の何かをしたいという思いが具体的にになった計画になっている。職員はその具体的な内容でモニタリングを行っており、日々の記録も行い、次に活かせるよう取り組んでいる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、連絡記録を職員間で共有周知し活かせるよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの希望に応じ、外泊や外出の希望に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント、納涼祭等には地域住民の支援を頂き参加し楽しんでいる。職員も楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診サービスに努め、状況の変化の際は、ご家族の様子を見ながら、受診に付き添ってもらっている。悪化した場合の対応をご家族を中心に決めさせてもらっている。</p>	<p>利用者はそれぞれのかかりつけ医があり、受診には家族が付き添っている。必要時には職員も同行し、家族やかかりつけ医との連携がとれている。緊急の場合は緊急連絡票に症状を記入し救急車や医師につなぎ、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職場内の看護職に伝え、主治医の指示や受診を受けられるよう支援している。また、看護に即した介護の方法について看護師から指導を受け、利用者様への気付きが出来るようにしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>面会に行くことが出来る職員が誰でも寄って来て、励ましたり施設の様子を伝え、職員でそれらを共有し、医師と退院のタイミングを図る。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>申込・契約時または入所中、ご本人やご家族と話し合い、主治医の指示連携に努めている。状態の変化があった時は、ご家族と主治医の連携を密にする。</p>	<p>利用者が重度化した場合は他の施設につなげるなど家族と話している。事業所の出来ることを考えて看取りも行わない方針で家族に説明している。緊急の場合は主治医との連携を密にしている。</p>	<p>重度化した場合や看取りについて、急変時の対応も含め早い段階で利用者や家族の意向を確認し、書面の検討もされ関係者で方針を共有できるよう更に進めて行って頂きたい。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全職員が実践力を身に付けるため研修を実施している。また、介護の浅い職員には、個人的に指導している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練を消防署、地域住民の協力で年間2回実施した。</p>	<p>年2回、地域や消防署の協力で火災訓練を行っている。夜間を想定したり、歩ける利用者、車いすなど状態に合わせた訓練を行い消防署のアドバイスを受けている。ショート棟、デイサービス棟との連携も取れている。</p>	<p>近くに沢があり土砂災害の心配もあることから、事業所の立地条件を考慮した災害対策についても検討されるよう期待したい。更に訓練後は課題を検討し、次に繋げることを期待する。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある言葉かけを心がけ、家庭的な和やかな雰囲気になるようにしている。	利用者は人生の先輩として敬い、どんな言葉かけが適当なのか話し合い、「こういう声掛けがいいね」など言葉かけは常に意識している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定出来るよう支援している。家族への電話、散歩はご本人の希望にそって支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは出来ているが、個別ケアを心がけて支援している。利用者様への声掛けを大切に、共に過ごすようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に用意出来るよう常日頃心がけている。必要品の申し出があると、希望で職員が買い物に行ったり、買い物同行支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片付け等一緒に行っている。現病を把握し、糖分・塩分の控えた食事を利用者様と職員が楽しんで食事している。	ケア計画の中に「食器を片付けたい」という利用者の思いが記されており、職員はそのことが出来るよう声をかけいっしょに行っていた。郷土食や行事食は大切にしており、五平餅会など催されている。畑で取れた野菜も食卓に上る。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	楽しい雰囲気ですぐに食事をし、食事量を点検し変化がある時は、栄養摂取や水分確保が出来るよう看護師と共に工夫する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>茶殻を煮出した液を常に用意し、食後・就寝前外出後等口腔ケアの実施・声掛けを行っている。また、ご本人の状態に応じて職員が歯磨きティッシュ等も使い介助している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>オムツの会社の方の指導により、1か月のデータを取り、個人により合った排泄パターンを見付け支援している。</p>	<p>個々に排泄表を付けており、時間や利用者の様子を見ながら声をかけ、トイレに誘導している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給や食材を工夫している。(手作りヨーグルト、豆乳、多くの野菜の取入れ)協力医や看護師に状態を説明し、指示を頂いている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>本人の希望を大切に、機械浴等も使い、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。面会時は後にしたり、ご自分でお湯を張り入る方もいる。</p>	<p>入浴日は基本的に決まっているが、今日入りたいと入る利用者や、暗くなって入りたいと夜入る利用者もいる。重度の利用者は介助で機械も使って入浴し、ゆっくりと入浴している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>状態に応じて休んで頂けるよう支援している。ソファや畳で休んだり横になれる環境にしている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>ご本人の状態特変時には協力医に連絡し指示を受けている。薬の説明書を個別ファイルに綴じ何時でも確認できるようにしている。変更があった時は、申し送りを徹底している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の状態に合わせて、その方のやりたい役割・楽しみを把握し、支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状態に合わせ、中庭やデイサービス棟へ散歩などしている。	レクや歌が好きで隣のショート棟まで毎日出かける利用者もいる。日に1回は職員と中庭に出て散歩したり、畑を眺めてボランティアの人と話したりしている。個別にその日に対応が困難な時は、計画して外出の機会を作っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりまたはご家族の希望に応じて支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の気持ちを尊重し支援している。ご家族等にも理解して頂いている。荷物が届いた時など、お礼の電話をかけている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柔らかな灯り、リビングにソファがあり、好きな飲み物を一緒に飲む。季節の草花を生ける。菖蒲湯や季節行事を行い、四季折々の土地の食べ物等で季節感を表している。	天井が高く開放感があり、サンルームは太陽の光が差しこみ、畳のスペースでは利用者がゆっくりと過ごすことが出来る。廊下からは広い中庭や畑が眺められ季節を感じることが出来、気持ちのよい落ち着いた空間がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームの畳、リビングにソファがあり、自由なスペースを確保し囲らんしている。好きな時に自由にお茶をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物で居心地よく過ごして頂けるようご家族等をお願いをしている。ご本人とご家族は自由に部屋作りをしている。	ベッドは事業所が用意したものだが、使っていた家具などを置き、作品などで思い思いに部屋を飾っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で情報交換しながら、その人らしく生活が送れるよう支援している。職員がお手伝いする気持ちで一緒に行っていく関係づくりを心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念 2092600044					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>施設のマニュアルの中に入れたりスタッフルーム等に貼り、また、管理者の指導を受けながら理念を共有し、実践できるよう心掛けている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事に参加したり地域の方と施設内の行事に参加して頂いたりする事で地域とのつながりを保っている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>施設の行事への参加を地域の方に呼びかけ、参加して頂くことで利用者様や認知症の理解を深めている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に一回の運営推進会議を開催し、利用者様の生活状況、サービスの実際を報告し、意見を頂いている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>推進協議会の委員をお願いし、意見を頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体職員やミーティング等で周知し厳守に取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体職員会やミーティング等で話し合い、職員が意識し合い注意している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体職員会等で周知し、意識を深める活動をしている。理解には差があるが、今後も学ぶ機会を作っていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族には、マニュアルで説明を行い、理解・納得を図り、利用者様とご家族の考えを聞いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約を結ぶ時、苦情窓口について説明をさせて頂いている。ご家族の来所時、意見を聞き反映に努めている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員会、ミーティング、面接等で意見を聞く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を求め、業務内容・時間等を変更し、職員個々の状況を評価し、代表者の方に伝えている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修の資料を配布したり、勉強会を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の運営委員を務めていることを通じて情報の支援や交流を深めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談や施設見学・体験入所を行い、思いや要望等を聞いた上で安心して頂けるよう、関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、要望等を聞いたり、施設見学をし、環境を見て頂き、安心して頂けるよう関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	人生の先輩として、ご本人と共同し関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様・職員が共に生活していくを考え、ご家族とも相談しながら連携し、ご本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら連携し、ご本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の今までの経歴・馴染みの方や場所を把握し、連絡をとることが出来るよう努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握した上で、お互いが支えあったり助け合ったり出来るよう支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談等支援していくことを伝えている。他施設へ移られた方の訪問を考えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全体職員会・ミーティングや日々の生活の中で把握・確認し、ご本人・ご家族からも情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全体職員会・ミーティングや日々の生活の中で把握・確認し、ご本人・ご家族・前施設からも情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体職員会・ミーティングや日々の生活の中で把握・確認し、ご本人・ご家族からも情報を得ている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員に意見を求め、ご家族の意見も反映するようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、連絡記録を職員間で共有周知し活かせるよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの希望に応じ、外泊や外出の希望に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント、納涼祭等には地域住民の支援を頂き参加し楽しんでいる。職員も楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診サービスに努め、状況の変化の際は、ご家族の様子を見ながら、受診に付き添ってもらっている。悪化した場合の対応をご家族を中心に決めさせてもらっている。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職場内の看護職に伝え、主治医の指示や受診を受けられるよう支援している。また、看護に即した介護の方法について看護師から指導を受け、利用者様への気付きが出来るようにしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>面会に行くことが出来る職員が誰でも寄ってみて、励ましたり施設の様子を伝え、職員でそれらを共有し、医師と退院のタイミングを図る。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>申込・契約時または入所中、ご本人やご家族と話し合い、主治医の指示連携に努めている。状態の変化があった時は、ご家族と主治医の連携を密にする。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全職員が実践力を身に付けるため研修を実施している。また、介護の浅い職員には、個人的に指導している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練を消防署、地域住民の協力で年間2回実施した。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある言葉かけを心がけ、家庭的な和やかな雰囲気になるようにしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定出来るよう支援している。家族への電話、散歩はご本人の希望にそって支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは出来ているが、個別ケアを心がけて支援している。利用者様への声掛けを大切に、共に過ごすようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に用意出来るよう常日頃心がけている。必要品の申し出があると、希望で職員が買い物に行ったり、買い物同行支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片付け等一緒に行っている。現病を把握し、糖分・塩分の控えた食事を利用者様と職員が楽しんで食事している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	楽しい雰囲気ですぐに食事をし、食事量を点検し変化がある時は、栄養摂取や水分確保が出来るよう看護師と共に工夫する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>茶殻を煮出した液を常に用意し、食後・就寝前外出後等口腔ケアの実施・声掛けを行っている。また、ご本人の状態に応じて職員が介助している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>オムツの会社の方の指導により、1か月のデータを取り、個人により合った排泄パターンを見付け支援している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給や食材を工夫している。(手作りヨーグルト、豆乳、多くの野菜の取入れ)協力医や看護師に状態を説明し、指示を頂いている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>本人の希望を大切に、機械浴等も使い、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。面会時は後にしたり、ご自分でお湯を張り入る方もいる。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>状態に応じて休んで頂けるよう支援している。ソファーや畳で休んだり横になれる環境にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人の状態特変時には協力医に連絡し指示を受けている。薬の説明書を個別ファイルに綴じ何時でも確認できるようにしている。変更があった時は、申し送りを徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の状態に合わせて、その方のやりたい役割・楽しみを把握し、支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状態に合わせ、中庭やデイサービス棟へ散歩や昼食をもらいに行くなどしている。またご家族による外出も支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりまたはご家族の希望に応じて支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の気持ちを尊重し支援している。ご家族等にも理解して頂いている。荷物が届いた時など、お礼の電話をかけている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柔らかな灯り、リビングにソファがあり、好きな飲み物を一緒に飲む。季節の草花を生ける。菖蒲湯や季節行事を行い、四季折々の土地の食べ物等で季節感を表している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームの畳、リビングにソファがあり、自由なスペースを確保し囲んでいる。好きな時に自由にお茶をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物で居心地よく過ごして頂けるようご家族等をお願いをしている。ご本人とご家族は自由に部屋作りをしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で情報交換しながら、その人らしく生活が送れるよう支援している。職員がお手伝いする気持ちで一緒に行っていく関係づくりを心がけている。		

目標達成計画

作成日: 平成27年12月14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	事前に施設としての重度化、終末期に対する説明をご家族の方へ口頭のみでおこなっている点。	ご家族の方へ施設としての方針を明確に伝える。	施設の方針を書面をもって、ご本人、ご家族に理解が得られよう説明し同意していただけるよう進めていく。	6ヶ月
2	35	防災訓練を火災想定のみで訓練対応を考えている点。	当地に想定される災害を再確認し、それぞれに合った対応を考える。	運営推進会議等を活用し地域の方から想定される災害を聞き、また、ハザードマップ等も参考に防災計画を作成し、訓練につなげていきます。	3~4ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。